

2026年5月7日

2026年3月期 決算説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード:2053
ホームページ <https://www.chubushiryō.co.jp/>
お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部

26.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

中期経営計画2024の状況

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	16
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	17
② 飼料セグメント	18
③ その他セグメント	19
④ サステナビリティ経営	20

27.3期 業績予想

◇ 27.3期 業績予想	22
◇ 27.3期 営業利益の増減要因	23
◇ 27.3期 主要指標計画と取組み方針①②	24-25
◇ 配当・自己株式取得の状況	26

その他

◇ トピックス①②	28-29
◇ 株主優待	30
◇ 参考資料	31

26.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

中期経営計画2024の状況

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	16
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	17
② 飼料セグメント	18
③ その他セグメント	19
④ サステナビリティ経営	20

27.3期 業績予想

◇ 27.3期 業績予想	22
◇ 27.3期 営業利益の増減要因	23
◇ 27.3期 主要指標計画と取組み方針①②	24-25
◇ 配当・自己株式取得の状況	26

その他

◇ トピックス①②	28-29
◇ 株主優待	30
◇ 参考資料	31

全ての利益項目で過去最高益を更新

(単位:百万円)

	25.3 実	26.3 計 (4/23発表)	26.3 実	計画比	前期比
売上高	209,837	211,000	211,814	814	1,977
飼料	191,390	—	191,181	—	△209
その他 ※1	18,447	—	20,633	—	2,186
営業利益	4,281	6,500	6,584	84	2,302
経常利益	4,815	7,100	7,168	68	2,353
セグメント利益 ※2	4,986	—	7,661	—	2,674
飼料	3,958	—	6,486	—	2,528
その他 ※1	1,405	—	1,214	—	△191
調整額 ※3	△ 377	—	△39	—	337
当期純利益	3,503	5,500	5,551	51	2,048
設備投資額 ※4	4,167	3,500	4,466	966	299
減価償却費 ※4	2,971	3,050	3,032	△18	61
基金負担金 ※4	5,238	5,500	5,401	△99	163

売上高 増収

畜産飼料の平均販売価格の下落等による飼料セグメントの減収を鶏卵販売の売上高増加による
その他セグメントの増収が上回る

営業利益 増益

次ページで説明

調整額

受取配当金と投資有価証券売却益の増加により改善

設備投資額

積極的な投資により前期を上回る

飼料セグメント

10-13ページ 参照

その他セグメント

14ページ 参照

※1. その他セグメント: 鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
2. セグメント利益: 税金等調整前当期純利益

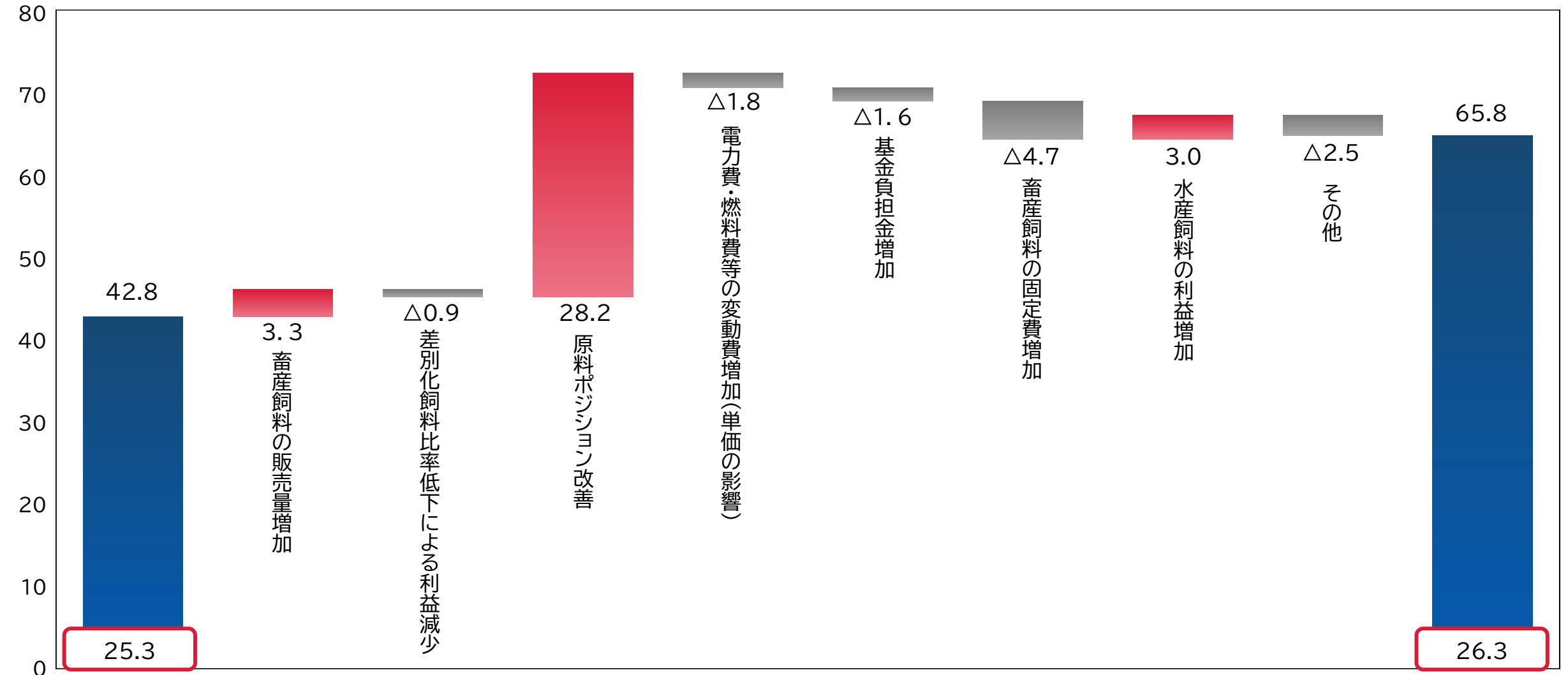
3. 調整額: 各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む
4. 設備投資額、減価償却費及び基金負担金の「26.3計」は、当初計画値

営業利益の増減要因

◇ 営業利益

▶ 原料ポジション改善、畜産飼料の販売量増加、水産飼料の利益増加により増益

億円



26.3期 要約連結貸借対照表

(単位:億円)

流動資産	679 (+18)	負債	361 (+20)
現預金	118 (Δ1)	買掛金	157 (+4)
売上債権	395 (+6)	有利子負債	94 (Δ4)
たな卸資産	123 (+13)	DEレシオ 0.13倍(+0倍)	
流動比率 271.8%(Δ11.4pt)		純資産	728 (+53)
固定資産	409 (+55)	株主資本	667 (+23)
有形	271 (+14)	その他包括利益	60 (+29)
無形	3 (Δ0)	非支配株主持分	1 (+0)
投資その他	134 (+41)	自己資本比率 66.8 %(+0.4pt)	
総資産	1,089 (+73)	負債・純資産	1,089 (+73)

※ ()内の数値は、25.3期末との比較

[参考] DEレシオ:負債資本倍率。有利子負債が自己資本の何倍かを計算した数値

配合飼料原料の約90%が輸入原料。原料割合ではとうもろこしが約50%、大豆油粕が約15%を占める

◇ 主要原料のシカゴ相場

- ▶ とうもろこしは下落基調であったものの、8月以降は上昇し、概ね横ばい
- ▶ 大豆油粕は概ね安定的に推移したが、前期を下回る

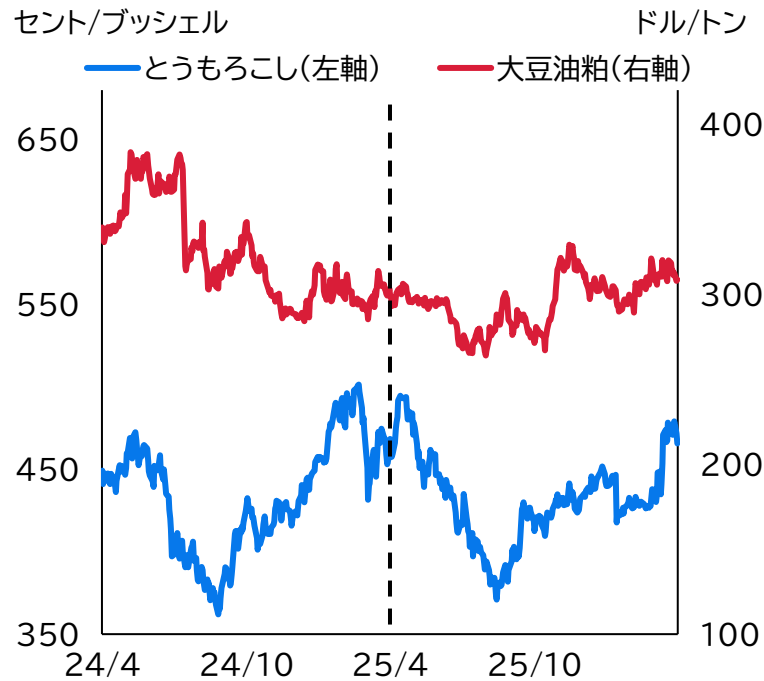
◇ 為替相場

- ▶ 緩やかに円安で推移したものの、前期と比べ僅かに円高

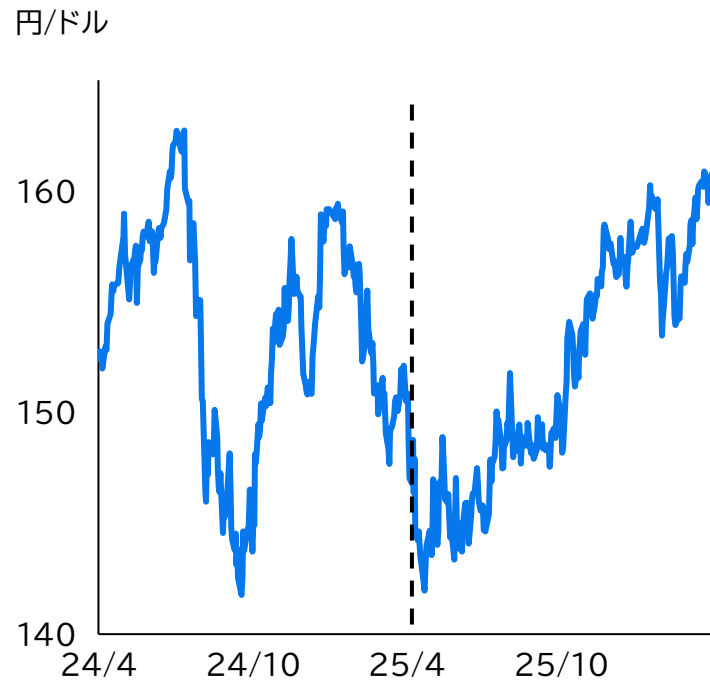
◇ 主要原料の通関価格

- ▶ とうもろこしは円高により、前期を下回る
- ▶ 大豆油粕は円高も相まって、前期を大幅に下回る

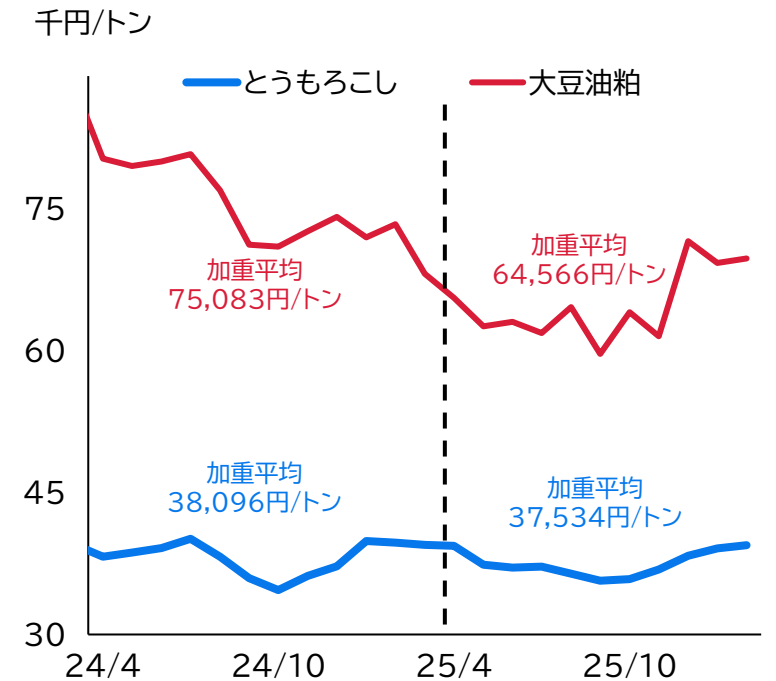
とうもろこし及び大豆油粕の相場価格推移



為替相場の推移



とうもろこし及び大豆油粕の通関価格推移



※ 財務省「貿易統計」、26/2までの推移

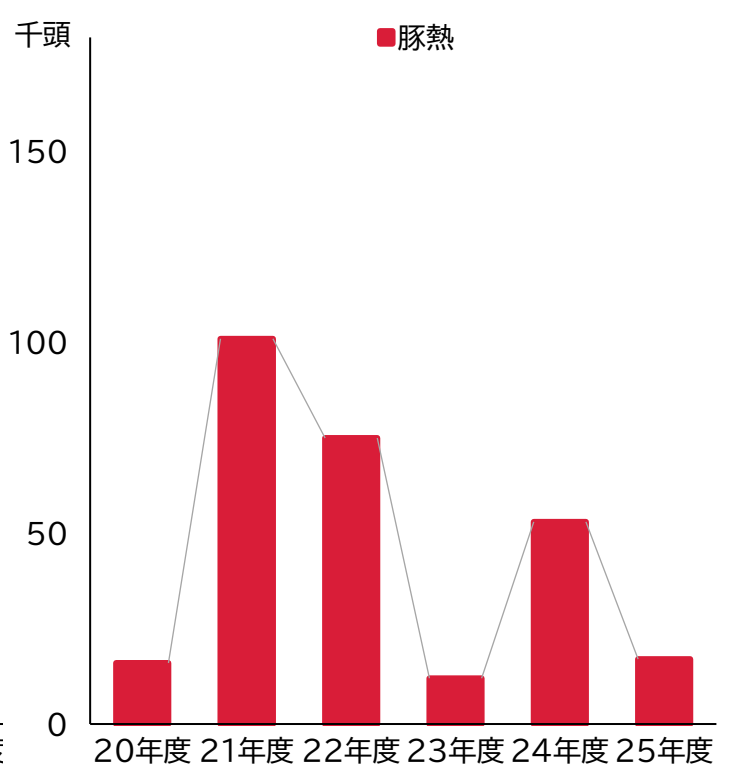
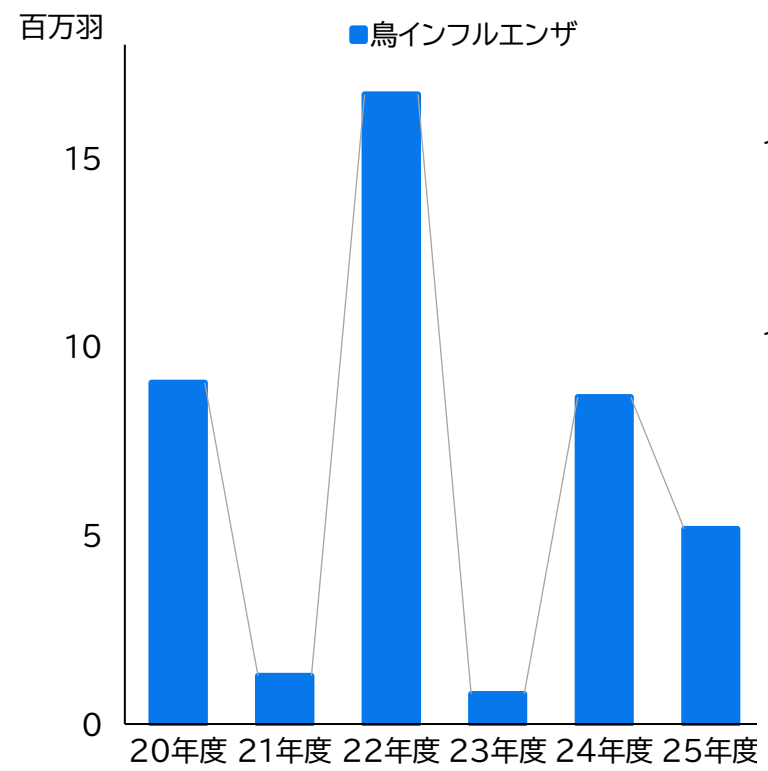
◇ 鳥インフルエンザ及び豚熱 発生農場の飼養頭羽数

▶ 疾病の影響を受けた飼養頭羽数は前年度を下回る

◇ 25年度の畜産飼料の市場流通量

▶ 農場での火災事故等の影響はあったものの、概ね横ばい

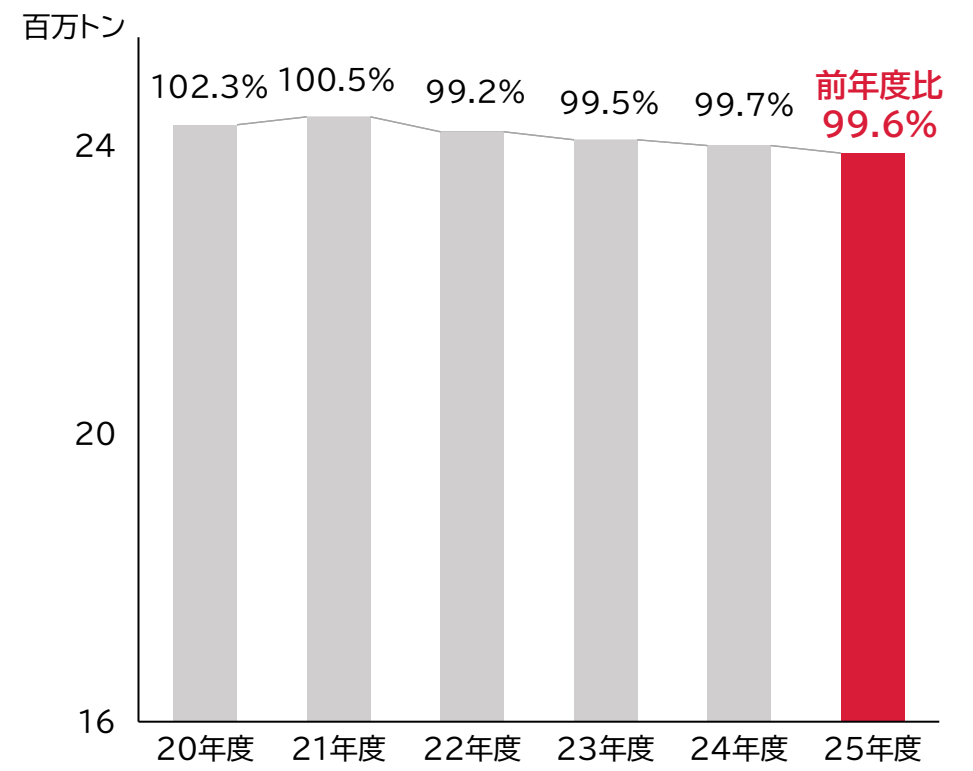
鳥インフルエンザ及び豚熱 発生農場の飼養頭羽数



※1. 農林水産省公表値
2. 飼養羽数は採卵鶏用の値

※1. 農林水産省公表値
2. と畜場及びいのししは除く

畜産飼料市場流通量の推移

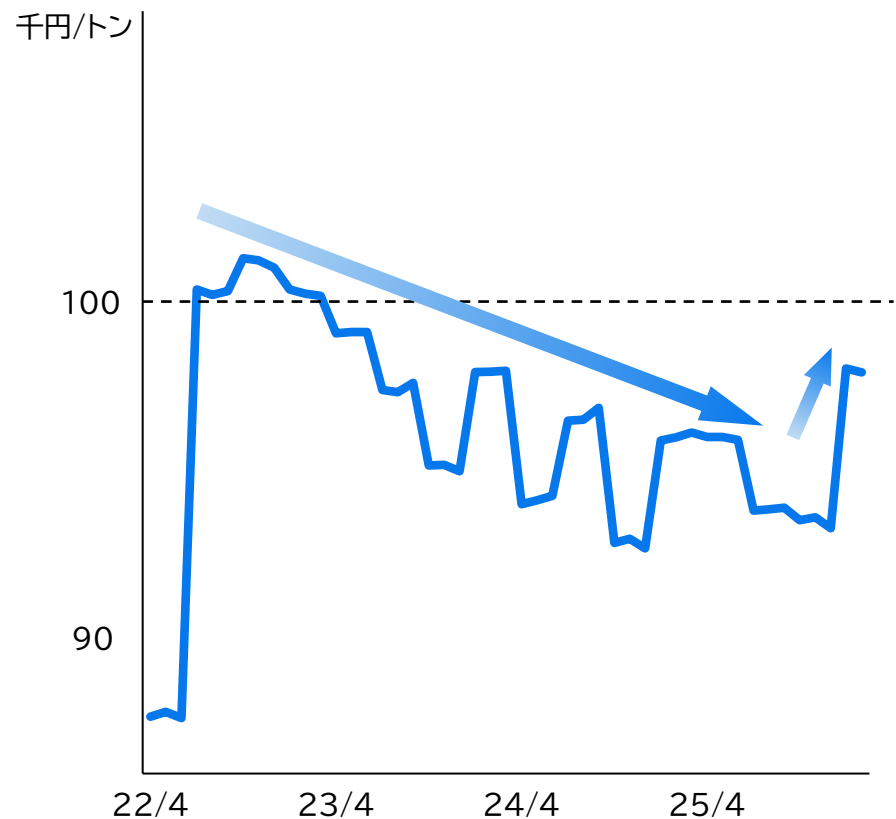


※1. 配合飼料供給安定機構「飼料月報」、輸出用除く
2. 25年度は4-2月の速報値に3月を前年並みとして当社試算

◇ 配合飼料価格

▶ 22年7月に高騰。その後緩やかに下落し、直近は上昇

配合飼料価格の推移



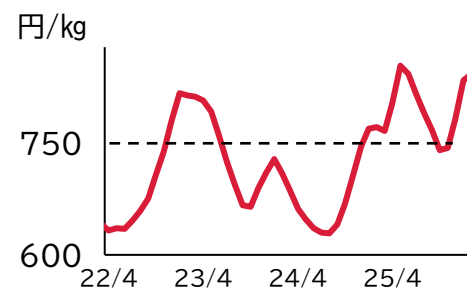
※1.配合飼料供給安定機構「飼料月報」
2.全畜種加重平均(袋物,バラ)工場渡価格、26/2までの推移

◇ 畜産物相場

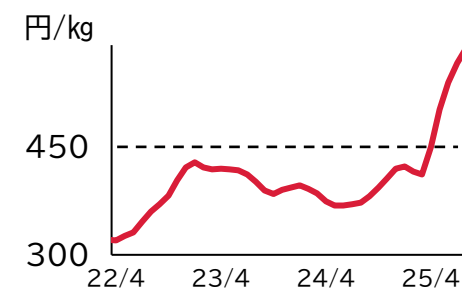
▶ 牛肉価格は概ね横ばい。その他の畜産物は上昇傾向

畜産物相場

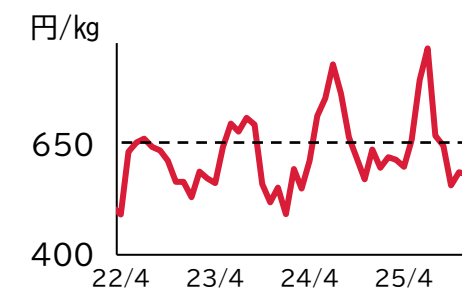
鶏もも肉 (東京卸売価格)



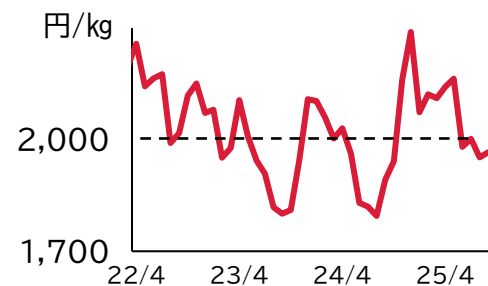
鶏むね肉 (東京卸売価格)



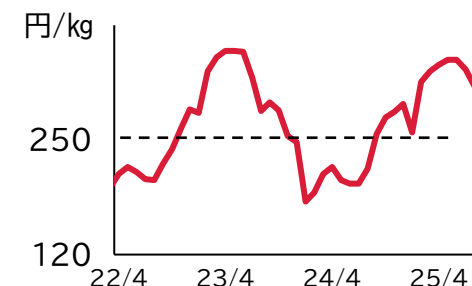
豚肉 上物 (東京市場 卸売価格)



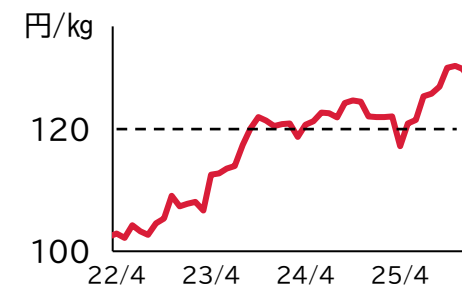
和牛去勢A3 (東京市場 卸売価格)



鶏卵 (東京Mサイズ)



生乳農家 販売価格



※ (独)農畜産業振興機構「国内統計資料」、26/2までの推移

飼料セグメントの状況① 畜産飼料の動向

◇ 畜産飼料販売量

- ▶ 計画は下回ったものの、全畜種で前期を上回る(前期比102.1%)
 - ✓ 養豚用飼料において、お客様に対する課題解決型提案営業が評価され、大幅に増加
 - ✓ 鳥インフルエンザや豚熱といった疾病、農場火災の影響等により計画には届かず

◇ 環境に配慮した飼料の販売量

- ▶ 計画・前期ともに上回る
 - ✓ 窒素の排出を抑制する採卵鶏用飼料のリニューアルが進み、販売量が増加

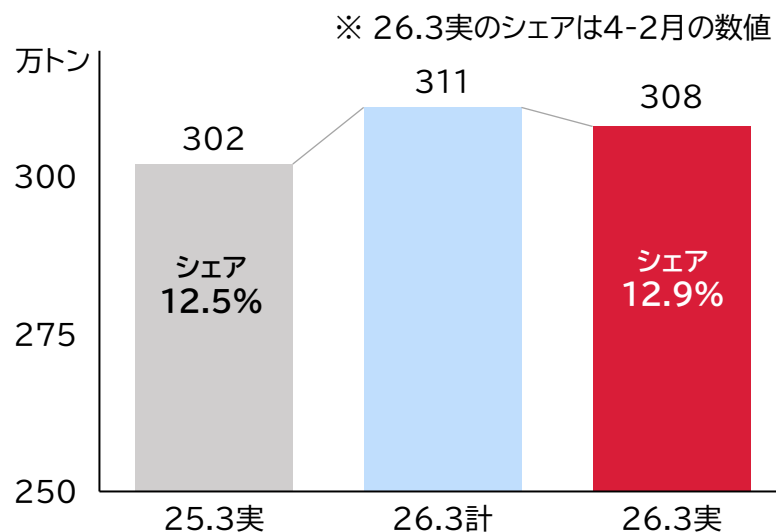
➔ 畜産飼料の販売量増加により3.3億円の利益増加

◇ 差別化飼料比率

- ▶ 計画・前期ともに下回る
 - ✓ ブロイラー用飼料において、差別化飼料の汎用化が進み、比率が低下

➔ 差別化飼料比率の低下により0.9億円の利益減少

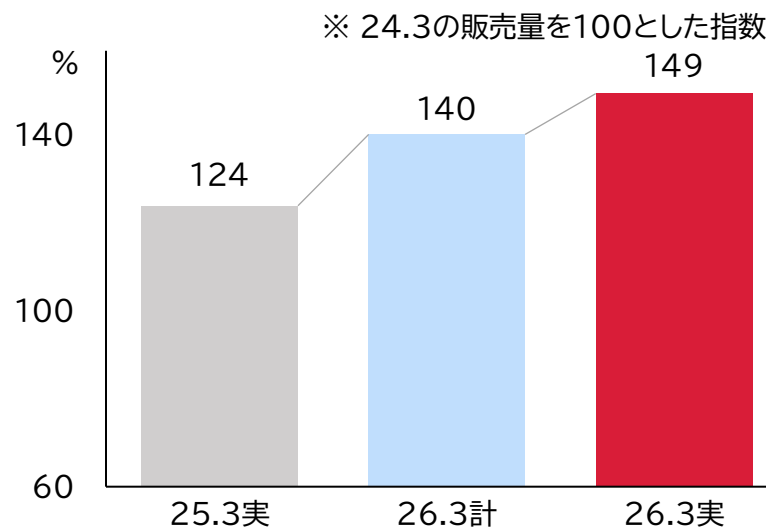
Ⓜ畜産飼料の販売量



通期計画103%



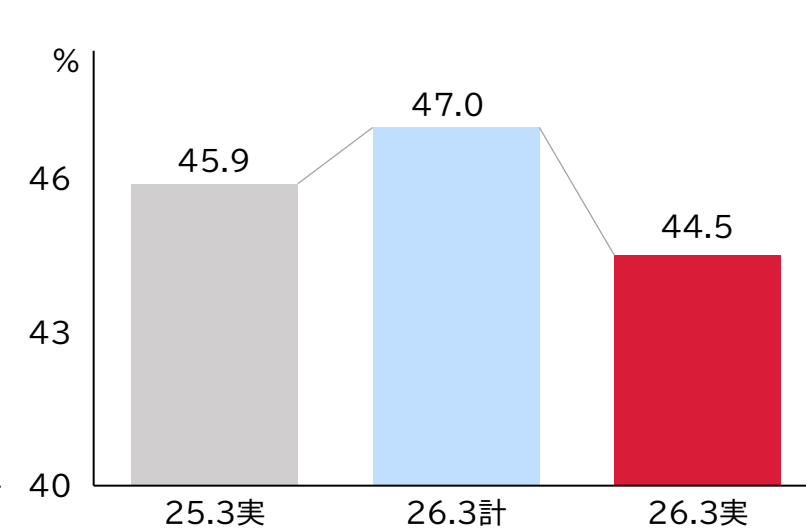
環境に配慮した飼料の販売量指数



通期計画140%



差別化飼料の売上高構成比



通期計画47%



原料ポジションとは

配合飼料価格と原材料価格の差のこと

- ①配合飼料価格・・・ 原材料価格の動向により四半期毎に改定し付加価値販売の推進により変動
- ②原材料価格・・・ 穀物相場や為替、海上運賃等の外部要因と製造工程における改善及び配合設計の見直しにより変動

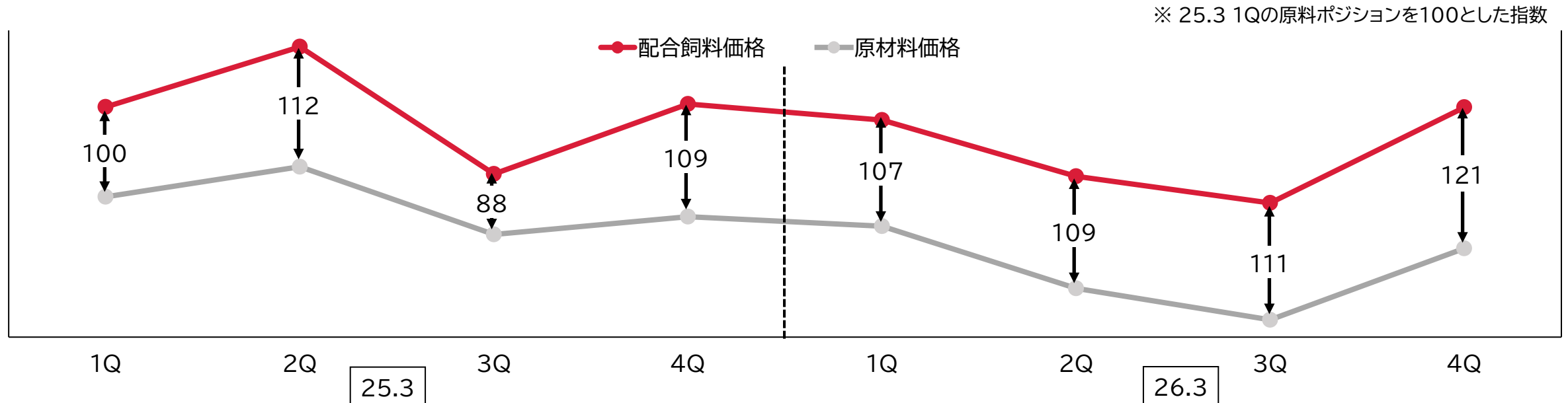
(例)①と②の差が前期比でプラスとなる場合、原料ポジション改善

◇ 原料ポジション

- ▶ 計画・前期ともに上回る(改善)
 - ✓ 価格改定実施後の穀物相場の下落と円高進行により改善
 - ✓ 配合設計の見直しや価格競争力がある原料の活用により改善
 - ✓ 製造加工条件の最適化を進め、歩留まりを改善

➔ 28.2億円の利益増加

Ⓜ 配合飼料価格及び原材料価格の推移



通期計画17.7億円

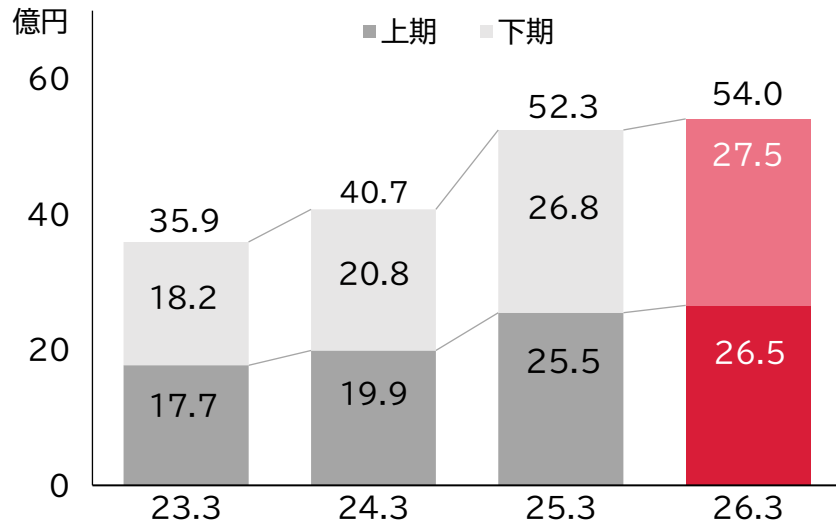


◇ 基金負担金

- ▶ 積立金単価の上昇により前期を上回ったものの(悪化) 計画を下回る(改善)

➔ 基金負担金1.6億円増加

Ⓜ基金負担金の推移



通期計画2.8億円 ☀️

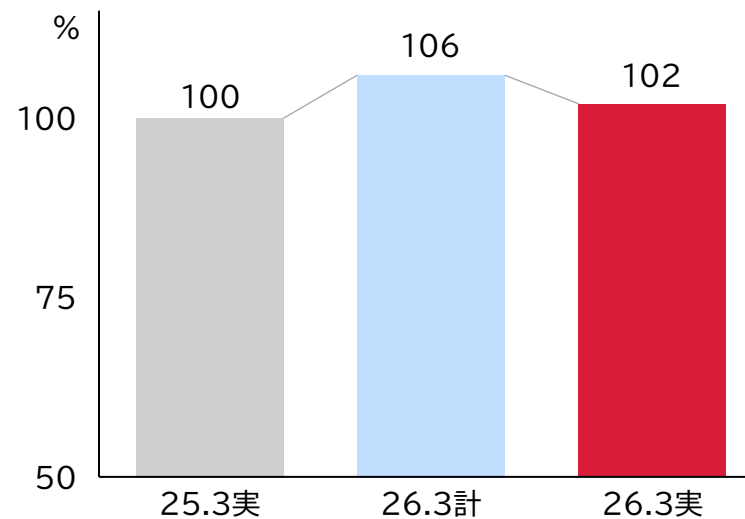
◇ 変動費(単価の影響) ※基金負担金除く

- ▶ 前期を上回ったものの(悪化)、計画を下回る(改善)
- ✓ 電力・燃料費単価は下落も、運賃単価(原材料搬入時及び飼料運搬時)は値上げの影響により上昇

➔ 変動費(単価の影響)1.8億円増加

変動費単価の指数

※ 25.3の単価を100とした指数



通期計画3.7億円 ☀️

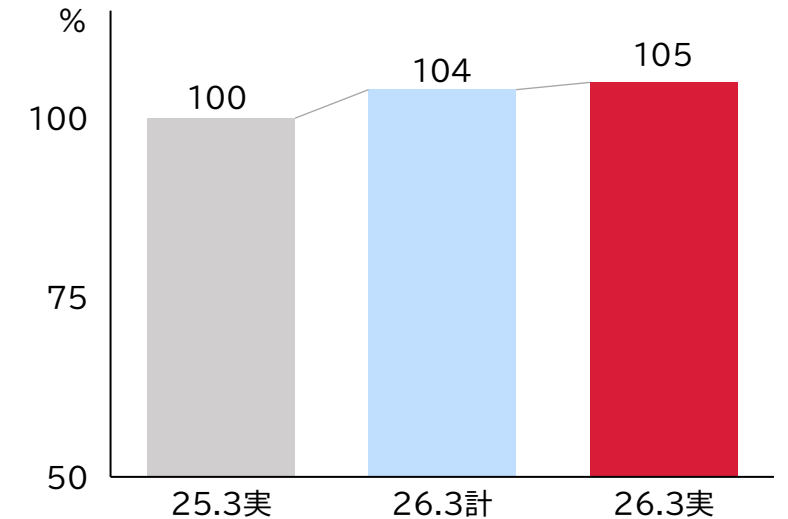
◇ 固定費

- ▶ 計画・前期ともに上回る(悪化)
- ✓ 人的資本投資により、人件費が増加
- ✓ 安定供給を果たすため、工場老朽化対策を計画的に実施し、修繕消耗品費が増加

➔ 固定費4.7億円増加

固定費の指数

※ 25.3の金額を100とした指数



通期計画4.3億円 ☁️

☀️...計画達成 ☁️...計画未達

◇ 水産飼料販売量

- ▶ 計画・前期ともに上回る(前期比109.0%)
 - ✓ ウナギ用新製品の拡販及びハマチ用飼料の製販一体による供給体制が評価され、大幅に増加

◇ 環境に配慮した飼料の販売量

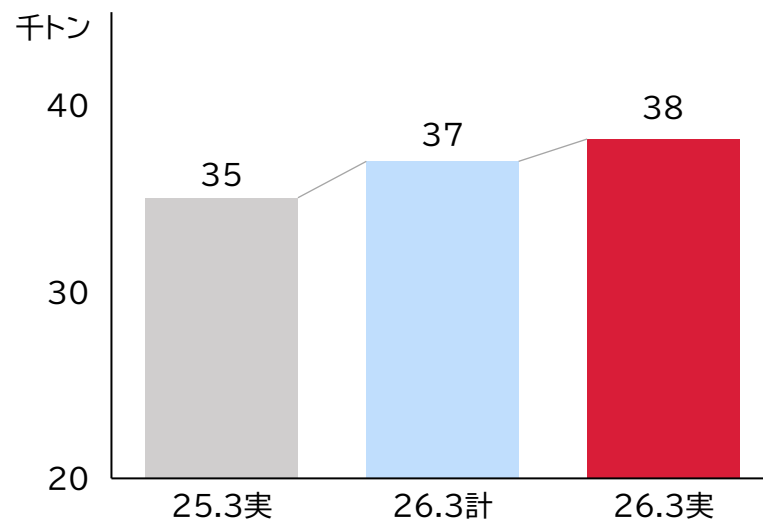
- ▶ 計画は下回ったものの、前期を上回る
 - ✓ 低魚粉飼料の嗜好性改善により販売量が増加

◇ 利益率

- ▶ 計画・前期ともに上回る
 - ✓ 配合設計の見直しにより品質を維持しながらコストを抑制した製品の投入を実施
 - ✓ 主原料である魚粉及び代替原料である大豆油粕の価格は下落

➔ 3.0億円の利益増加

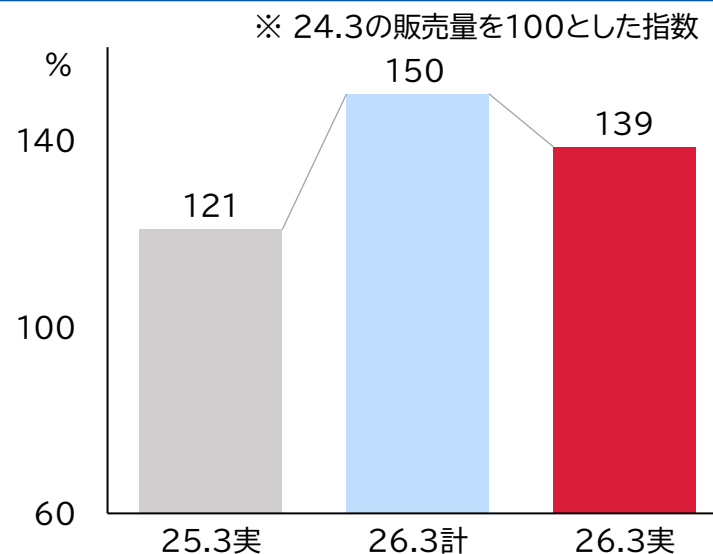
Ⓜ 水産飼料の販売量



通期計画107%



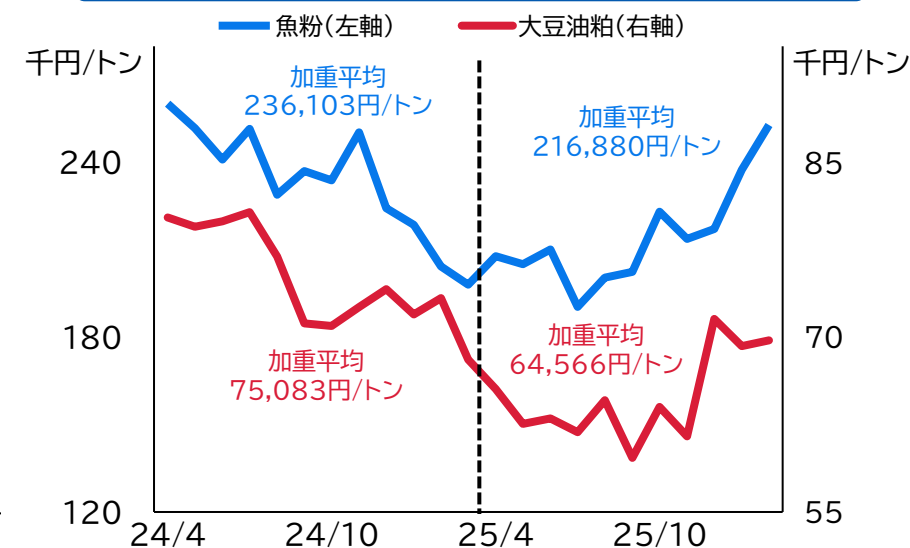
環境に配慮した飼料の販売量指数



通期計画150%



魚粉及び大豆油粕価格の推移



※1. 財務省「貿易統計」、26/2までの推移
 ※2. 25.3は4-3月、26.3は4-2月の加重平均

◇ その他セグメントの利益

- ▶ 前期を下回るものの、計画を上回る
- ✓ 畜産用機器の利益減少分がほぼ減益分に相当

◇ 鶏卵販売

- ▶ 主力の「ごまたまご」を中心に特殊卵の販売強化が奏功し、販売量と利益が前期を上回る

◇ 畜産用機器

- ▶ 機器販売台数が前期を上回るも、利益率が低下し、利益は前期を下回る

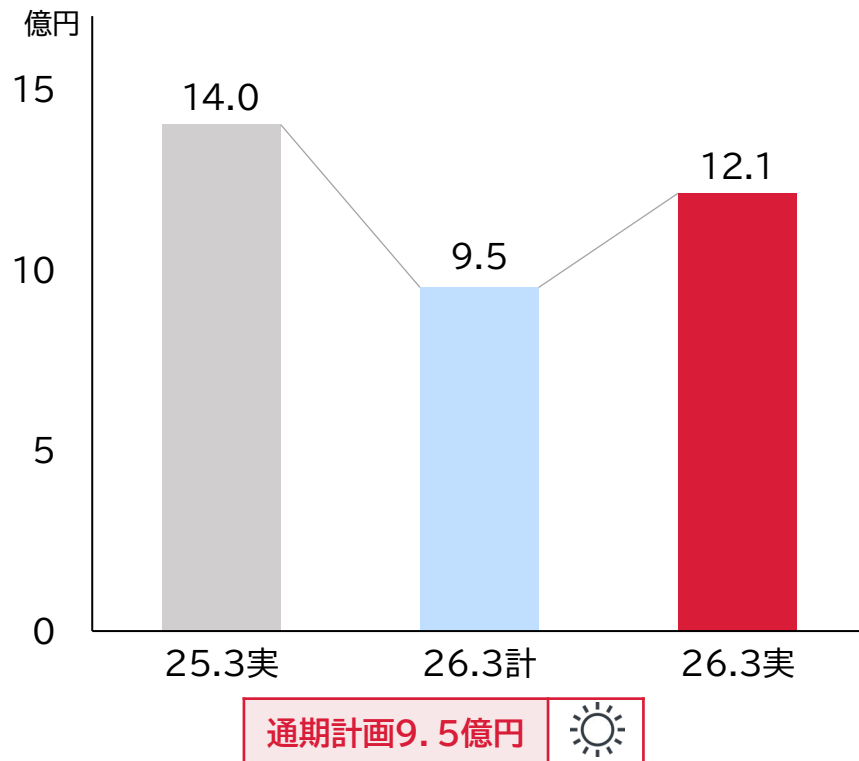
◇ 肥料

- ▶ 堆肥使用の有機入り配合肥料が販売量を牽引。原価低減の取組みもあり、販売量と利益が前期を上回る

◇ 保険代理業

- ▶ 畜産保険の販売が大型の契約更新を含め堅調に推移し、利益は前期を上回る

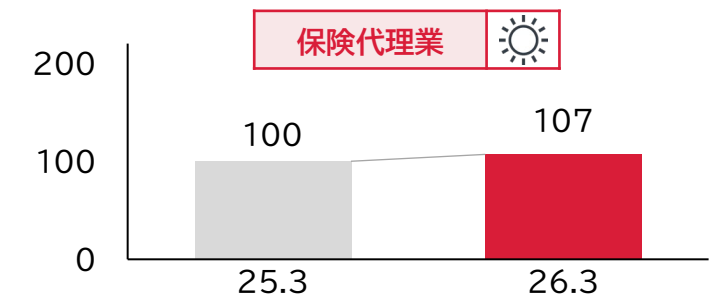
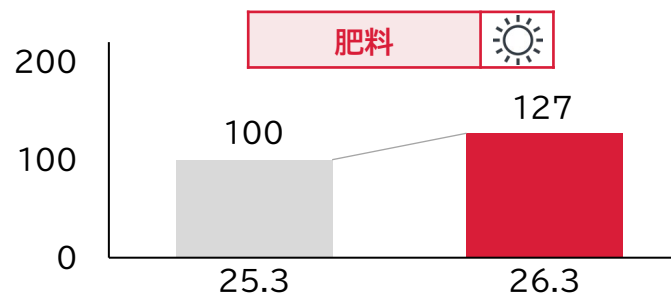
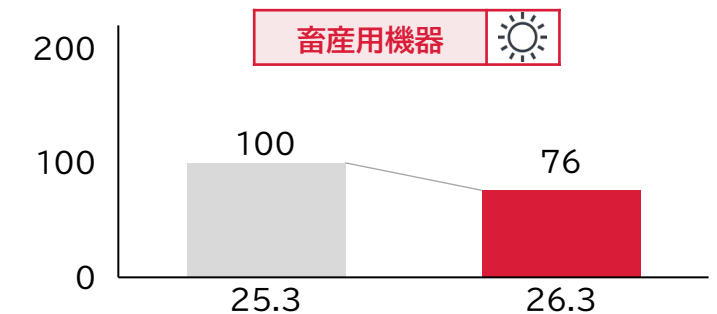
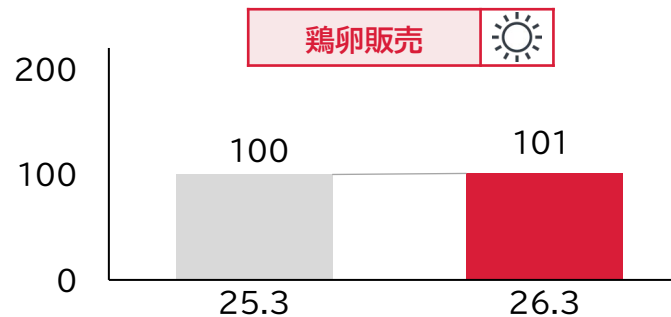
セグメント利益



☀️...計画達成 ☁️...計画未達

事業別の利益指数

※ グラフは25.3期のセグメント利益を100とした指数



26.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

中期経営計画2024の状況

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	16
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	17
② 飼料セグメント	18
③ その他セグメント	19
④ サステナビリティ経営	20

27.3期 業績予想

◇ 27.3期 業績予想	22
◇ 27.3期 営業利益の増減要因	23
◇ 27.3期 主要指標計画と取組み方針①②	24-25
◇ 配当・自己株式取得の状況	26

その他

◇ トピックス①②	28-29
◇ 株主優待	30
◇ 参考資料	31

基本方針

中長期的な企業価値の向上とさらなる成長を実現するため、収益力向上と規模拡大により強い収益基盤を構築する

+

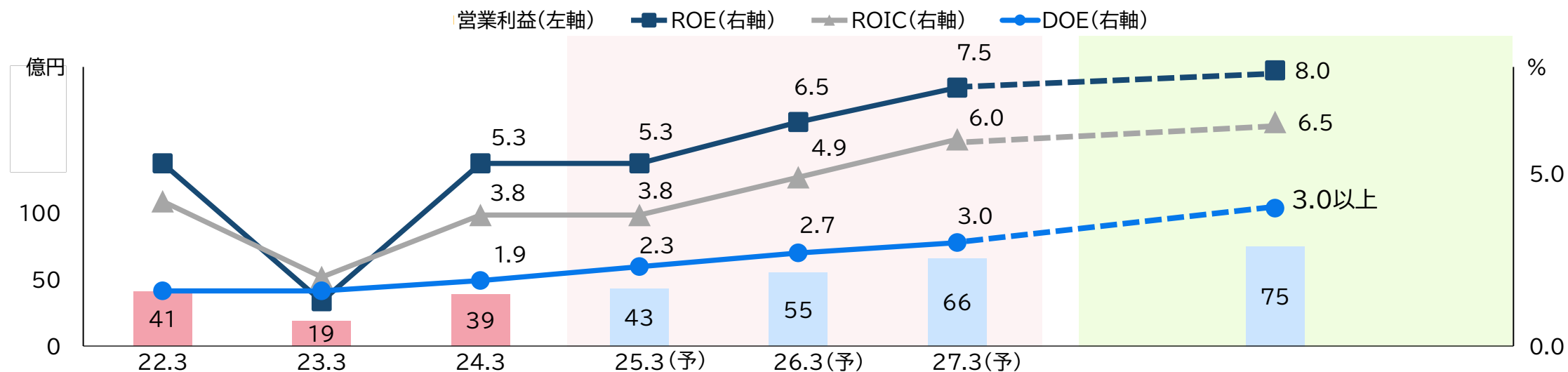
資本コストを意識した経営を実践し、PBR向上を図る

[参考] PBR:株価純資産倍率。株価が1株当たり純資産の何倍であるかを示す指標

基本戦略

1. 飼料セグメントの収益力向上と規模拡大
2. その他セグメントの事業成長の加速
3. 収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

位置づけ 回復基調を確実なものとし、より強い収益基盤を再構築＝持続的な成長を実現



[参考] ROIC:投下資本利益率。企業が事業活動のための投下した資本からどれくらいの利益を生み出したかを測る指標

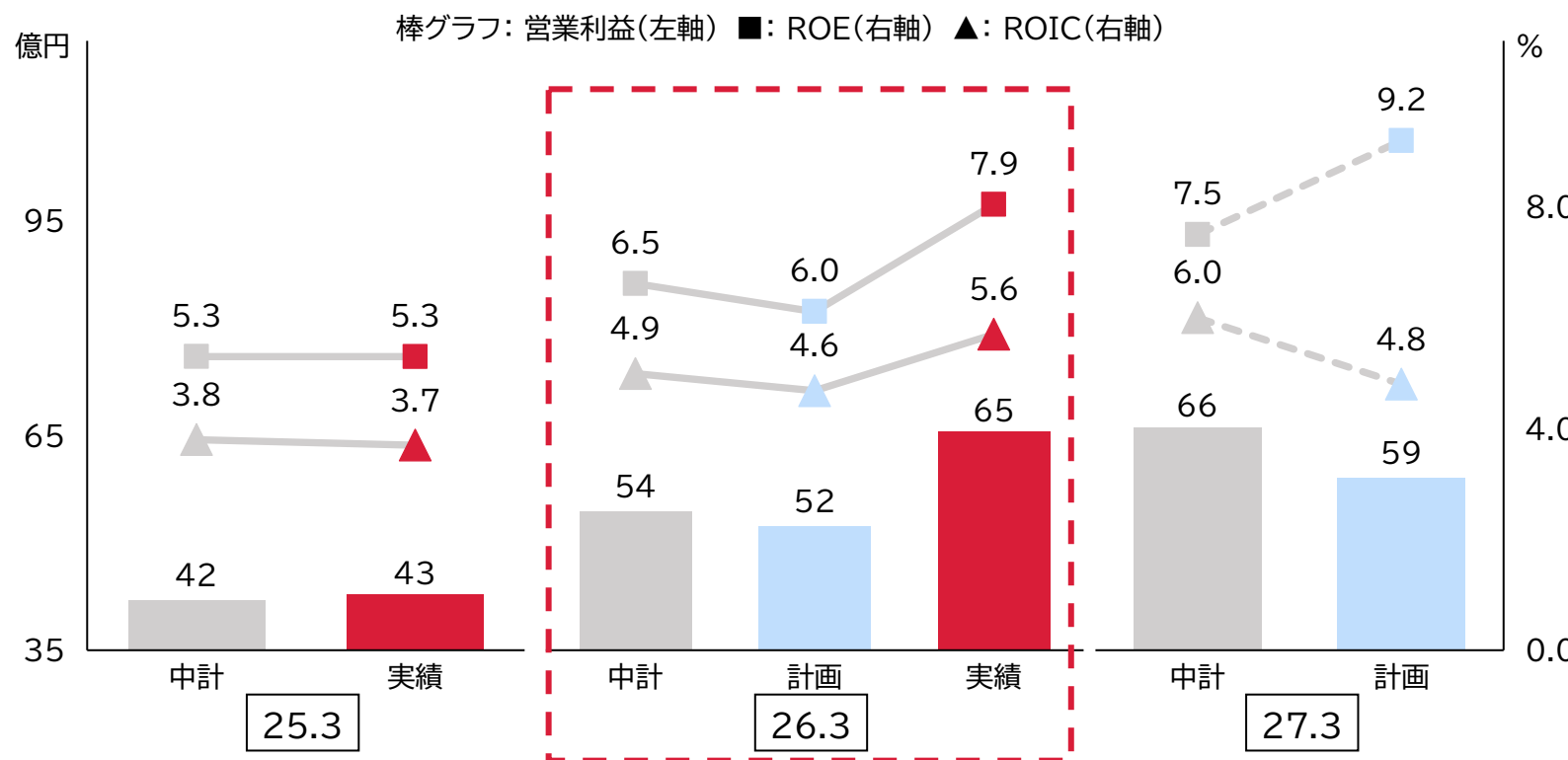
【中期経営計画2024】

【中期経営計画2027】

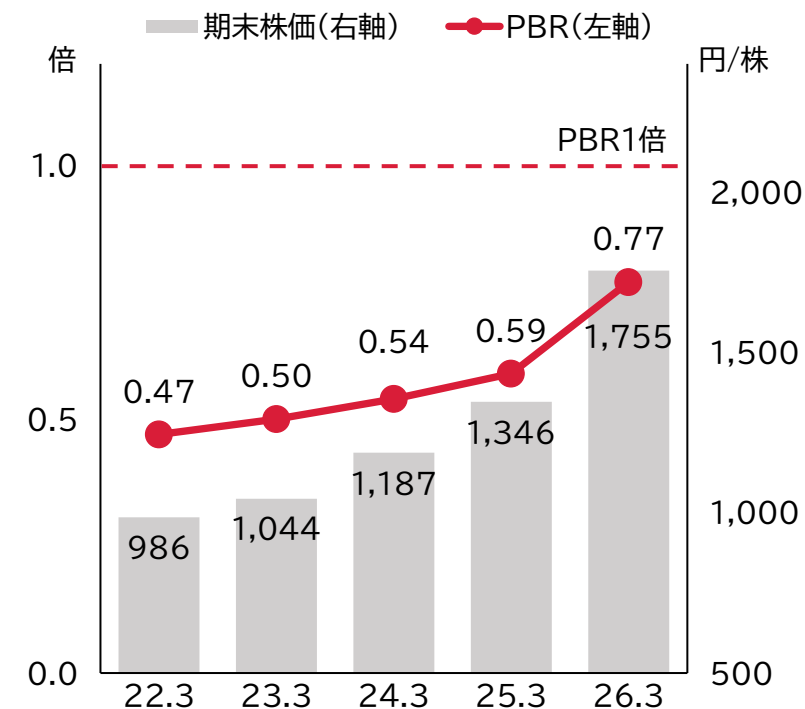
◇ 中期経営計画2024の計画2年目の取組み結果

- ▶ 営業利益、ROE及びROIC、いずれも中計(2年目計画)と計画(26.3期業績予想)を大幅に上回る
- ▶ PBRは前期(25.3末)より大幅に改善するも、まだ1倍に届いていない

営業利益、ROE及びROICの推移



期末株価とPBRの推移





1. 飼料セグメントの収益力向上と規模拡大

◇ 定量計画(飼料セグメント利益計画)の進捗

▶ 中計2年目計画 5,500百万円 → 実績 6,486百万円



基本戦略	26.3期(計画2年目)の取組み評価と課題	
<p>◇ 畜産飼料</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 製販研一体取組みの推進 ▶ 環境に配慮した飼料の開発・販売 ▶ 差別化飼料の拡販 ▶ 原価低減、生産性の向上 <p>◇ 水産飼料</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 低・無魚粉飼料の拡販 ▶ 試験漁場を持つ強みを生かし、新製品の開発を加速 ▶ 高付加価値水産物の販売強化 <p>◇ 飼料セグメント共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 営業・研究人員の増員・育成 ▶ ROICツリーの活用 	畜産飼料	
		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境に配慮した飼料への取組み、原価低減・生産性の改善、ROICツリーの活用取組みは着実に進展 ▶ 製販研一体取組み、営業や研究人員体制の充実及び差別化飼料の拡販に課題が残り、販売量は計画を下回る
	水産飼料	
		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新製品の開発及び安定した供給体制が評価され販売量は計画を上回り、高付加価値水産物の販売の取組みも着実に進展 ▶ 低・無魚粉飼料の拡販、人員体制の充実、製品の生産性や品質の改善、ROICツリーの活用取組みに課題が残る

2. その他セグメントの事業成長の加速

◇ 定量計画(その他セグメント利益計画)の進捗


▶ 中計2年目計画 950百万円 → 実績 1,214百万円



基本戦略	26.3期(計画2年目)の取組み評価と課題
<p>◇ 鶏卵販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 安定供給のための取組み ▶ 特殊卵の販売・開発強化及び組織力の強化 <p>◇ 肥料</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規顧客開拓、 ▶ 堆肥使用の有機入り配合肥料の開発・拡販 ▶ 関東の製造拠点の増産 <p>◇ 畜産用機器(子会社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規・追加設置の獲得 ▶ 海外の販売強化 ▶ 下水汚泥処理用機器の事業化 <p>◇ 保険代理業(子会社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 畜産保険の販売強化 	<p>◇ 鶏卵販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 安定供給のための取組み、特殊卵の販売は着実に進展 ▶ 特殊卵の開発、組織力の強化に課題が残る <p>◇ 肥料</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 堆肥使用の有機入り配合肥料の拡販により販売量は計画を上回る ▶ 新商品開発、関東製造拠点の増産、新規顧客開拓に課題が残る <p>◇ 畜産用機器(子会社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国内外顧客との信頼関係強化を通じた機器販売は計画を上回る ▶ 利益率の改善、新規事業(下水汚泥処理機器)の進展に課題が残る <p>◇ 保険代理業(子会社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 販売強化の体制整備により畜産保険の販売は着実に進展 ▶ 畜産保険販売の新規開拓、生命保険販売に課題が残る



3. 収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

基本戦略	26.3期(計画2年目)の取組み評価と課題
<p>◇ 環境の主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 温室効果ガス排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2030年度までに20年度比30%削減 <p>◇ ガバナンスの主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 取締役会の実効性向上 ▶ リスクマネジメントの実効性向上 <p>◇ 社会の主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 働きやすく働きがいのある職場づくり ▶ 人的資本への積極的な投資 <ul style="list-style-type: none"> ✓ ESの向上、人材採用・育成、働き方の変革対応 	<div style="text-align: center;"></div> <p>◇ 環境の主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 温室効果ガス排出量の今後の削減プランの見直し <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2024年度実績は20年度比11.1%削減 <p>◇ ガバナンスの主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 取締役会、リスクマネジメントにおけるさらなる実効性向上の取組み <p>◇ 社会の主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 人的資本への取組みの継続 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 継続的な処遇改善や社員エンゲージメントの向上の取組み ✓ 人材育成・柔軟な働き方の実現に向けたさらなる取組み

・・・計画達成 ・・・計画未達

26.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

中期経営計画2024の状況

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	16
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	17
② 飼料セグメント	18
③ その他セグメント	19
④ サステナビリティ経営	20

27.3期 業績予想

◇ 27.3期 業績予想	22
◇ 27.3期 営業利益の増減要因	23
◇ 27.3期 主要指標計画と取組み方針①②	24-25
◇ 配当・自己株式取得の状況	26

その他

◇ トピックス①②	28-29
◇ 株主優待	30
◇ 参考資料	31

27.3期 業績予想

前提条件

中東情勢の緊迫化によるエネルギーコストの増加や物価上昇に伴うコスト増加等を見込む

セグメント利益

セグメントの主要指標計画と取組み方針は、24-25ページで説明

ROE

固定資産の譲渡益計上により大幅な上昇を見込む

ROIC

投下資本の増加と営業利益減益により前期を下回ることを見込む

DOE

中計3年目計画どおりを見込む

	26.3 実	27.3 計	前期比	27.3 中計 (3年目)
売上高	211,814	221,000	9,186	—
飼料	191,181	201,000	9,819	—
その他	20,633	20,000	△633	—
営業利益	6,584	5,900	△684	6,600
経常利益	7,168	6,200	△968	7,000
セグメント利益	7,661	10,100	2,439	7,300
飼料	6,486	5,700	△786	6,650
その他	1,214	1,100	△114	1,000
調整額	△39	3,300	3,339	△350
当期純利益	5,551	6,900	1,349	5,100
ROE	7.9%	9.2%	1.3%	7.5%
ROIC	5.6%	4.8%	△0.8%	6.0%
DOE	2.7%	3.0%	0.3%	3.0%
設備投資額	4,466	3,900	△566	4,000
減価償却費	3,032	3,300	268	3,300
基金負担金(円/ト)	1,844	1,870	26	—

(単位:百万円)

売上高 増収

販売量の増加と平均販売価格の上昇を見込む

営業利益 減益

詳細は次ページで説明

調整額 増加

固定資産の譲渡益計上や政策保有株の売却益増加を見込む

当期純利益 増益

固定資産の譲渡益計上で増益中計3年目計画を上回ることを見込む

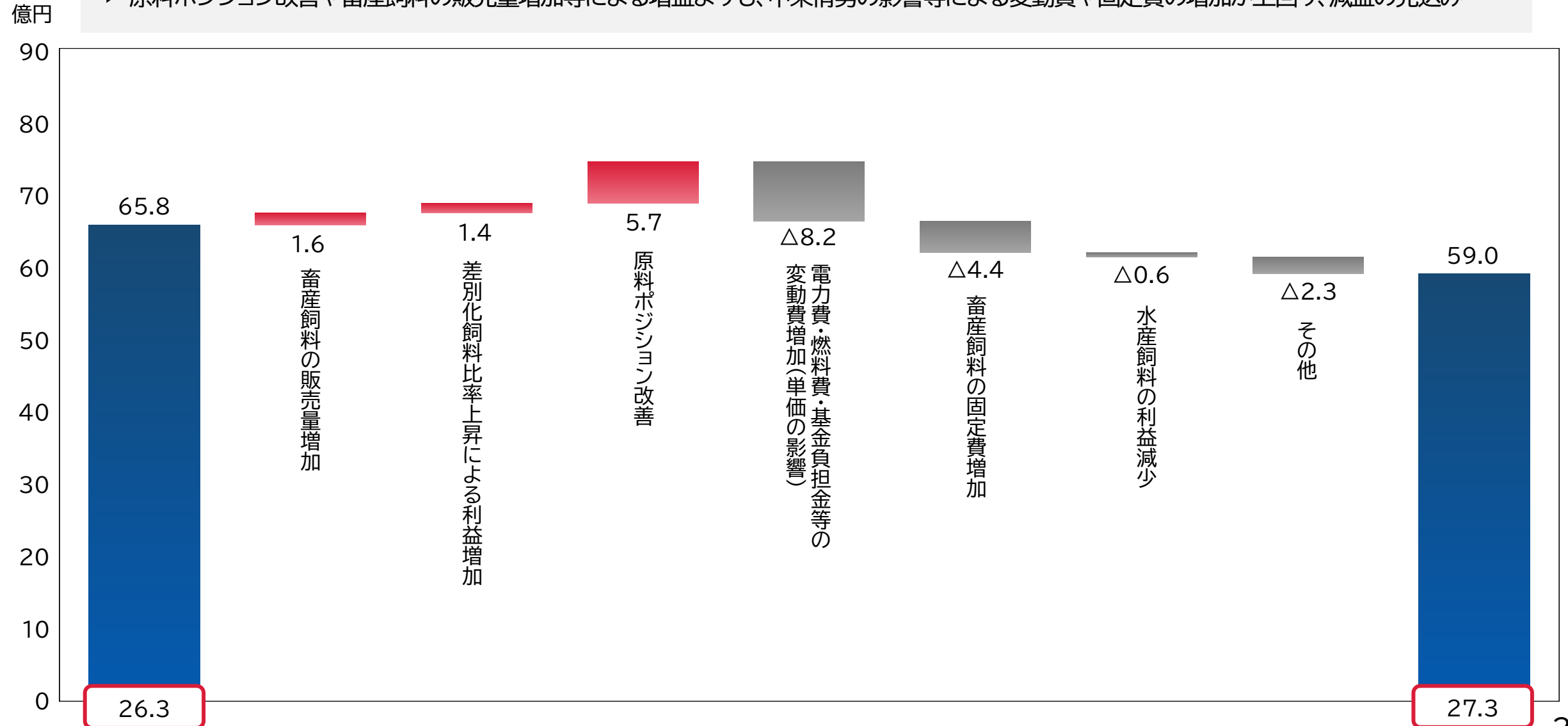
減価償却費 増加

基金負担金単価 上昇

27.3期 営業利益の増減要因

◇ 営業利益

▶ 原料ポジション改善や畜産飼料の販売量増加等による増益よりも、中東情勢の影響等による変動費や固定費の増加が上回り、減益の見込み



27.3期 主要指標計画と取組み方針①

畜産飼料	26.3期実績	27.3期計画	27.3期計画 (3年目)
畜産飼料販売量(前期比)	308万トン (102.1%)	311万トン (101.0%)	320万トン
差別化飼料の売上高構成比	44.5%	46.0%	50.0%
環境に配慮した飼料販売量(※)	149	150	150

水産飼料	26.3期実績	27.3期計画	27.3期計画 (3年目)
水産飼料販売量(前期比)	38千トン (109.0%)	40千トン (105.0%)	40千トン
環境に配慮した飼料販売量(※)	139	160	200

畜産飼料

- ▶ 市場流通量は減少を見込むも、販売量増加を計画
- ▶ 差別化飼料の売上高構成比は上昇を計画
- ▶ 環境に配慮した飼料の販売量指数は中計どおりを計画

水産飼料

- ▶ 市場流通量は横ばいを見込むも販売量増加を計画
- ▶ 環境に配慮した飼料の販売量指数は上昇を計画

※ 24.3期の販売量を100とした指数



基本戦略	重点取組み
1. 飼料セグメントの規模拡大と収益力向上	<p>最優先課題は、原材料の安定確保・飼料の安定供給の取組み</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>◇ 飼料販売量の増加に向けての取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 大型投資を行った研究施設を活用した新製品開発及び既存製品のブラッシュアップ ▶ ストレス緩和等の取組みによる成績改善を軸に販売強化 ▶ 社内情報共有体制の整備による積極的かつ迅速な提案行動の強化 ▶ 営業・研究人員体制の充実 </div> <div style="width: 45%;"> <p>◇ 収益力向上に向けての取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 製品ラインナップの刷新による生産性の向上 ▶ ROICツリーを活用した課題解決の実践 </div> </div>

27.3期 主要指標計画と取組み方針②

	26.3期実績	27.3期計画	27.3期計画 (3年目)
その他セグメント利益(合計)	12.1億円	11億円	10.0億円

その他セグメント

- ▶ 原料や資材コスト増加により利益率の低下を見込み減益を計画
- ▶ ただし、中計3年目計画を上回る見込み



基本戦略	重点取組み
2.その他セグメントの事業成長の加速	<p>◇ <u>販売量の増加・利益率改善に向けての取組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新商品開発や既存商品のブラッシュアップ、営業体制の充実、安定供給の仕組みづくり ▶ 中東情勢の影響に対しコスト削減や生産性改善等に取り組む
基本戦略	重点取組み
3.収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進	<p>◇ <u>温室効果ガス排出量削減の見直しプランの着実な実行</u></p> <p>◇ <u>サステナビリティ委員会・リスク管理委員会の活動強化</u></p> <p>◇ <u>「常に変革を目指し自ら考え行動する人材」の確保・育成の取組みを継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ES向上及び人材育成の領域へ重点的に投資

➡中期経営計画2024で策定した基本戦略の取組みとともに、領域ごとの課題を重点的に取組む

株主還元方針

- ▶ 安定配当を維持向上
- ▶ 持続的な成長を支える成長投資や設備投資、内部留保とバランスを取り、純資産配当率(DOE)を段階的に引き上げ、27.3期にDOE3%以上を目指す
- ▶ 株価水準や財務状況等を勘案して、自己株式の取得を機動的かつ積極的に実施

配当・自己株式取得の状況

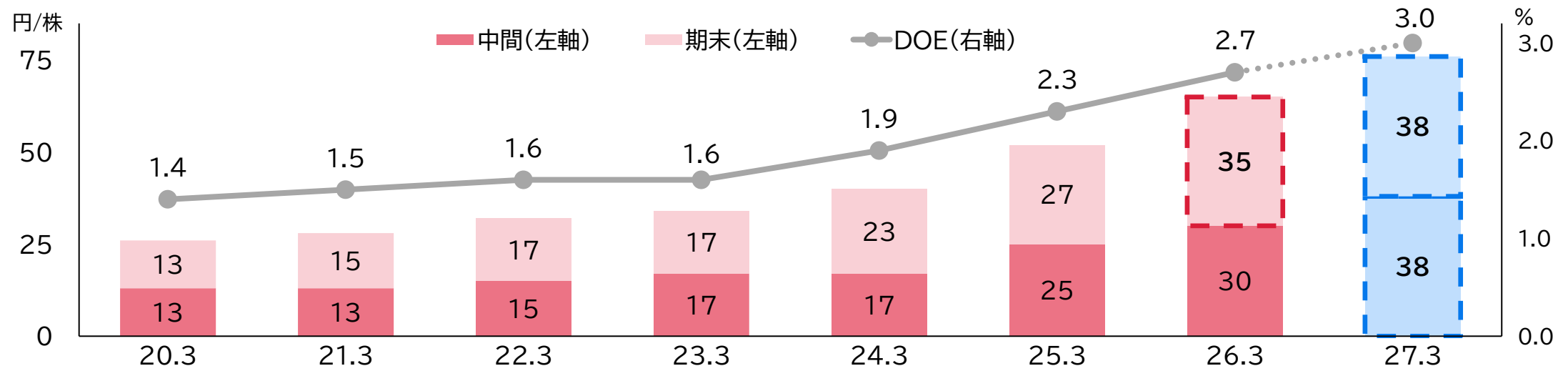
◇ 配当金

- ▶ 26.3期 ⇒ 期末35円/株(5円増配)、年65円(DOE2.7%)を予定
- ▶ 27.3期 ⇒ 中間・期末とも38円/株、年76円(DOE3.0%)を予定

◇ 自己株式取得

- ▶ 26.3期 ⇒ 取得株式数885千株、取得総額15億円を実施

1株当たり配当金及びDOEの推移



配当金総額 (億円)	7.8	8.4	9.5	10.0	11.8	15.3	18.8(予)	22.0(予)
自己株式 取得額(億円)	4.6	-	2.8	2.3	-	-	15.0	(未定)

26.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

中期経営計画2024の状況

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	16
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	17
② 飼料セグメント	18
③ その他セグメント	19
④ サステナビリティ経営	20

27.3期 業績予想

◇ 27.3期 業績予想	22
◇ 27.3期 営業利益の増減要因	23
◇ 27.3期 主要指標計画と取組み方針①②	24-25
◇ 配当・自己株式取得の状況	26

その他

◇ トピックス①②	28-29
◇ 株主優待	30
◇ 参考資料	31

トピックス① バイヤー向け展示会 出展

第60回スーパーマーケットトレードショーに出展しました！

当社の食肉開発営業部が出展
3種のブランド豚(いもぶた、ヤシノミポーク、瀬戸内ごま豚)の試食を提供し
豚肉の甘みや脂の風味の違いをアピール

開催地：幕張メッセ(千葉県)
日程：2026年2月18日～20日
来場者数：80,922名



第23回シーフードショー大阪に出展しました！

当社の水産部が出展
「恵比寿ぶり」の試食を提供し、臭みが少ない点や加工後も血合肉の
鮮やかさが長時間保持される特長をアピール

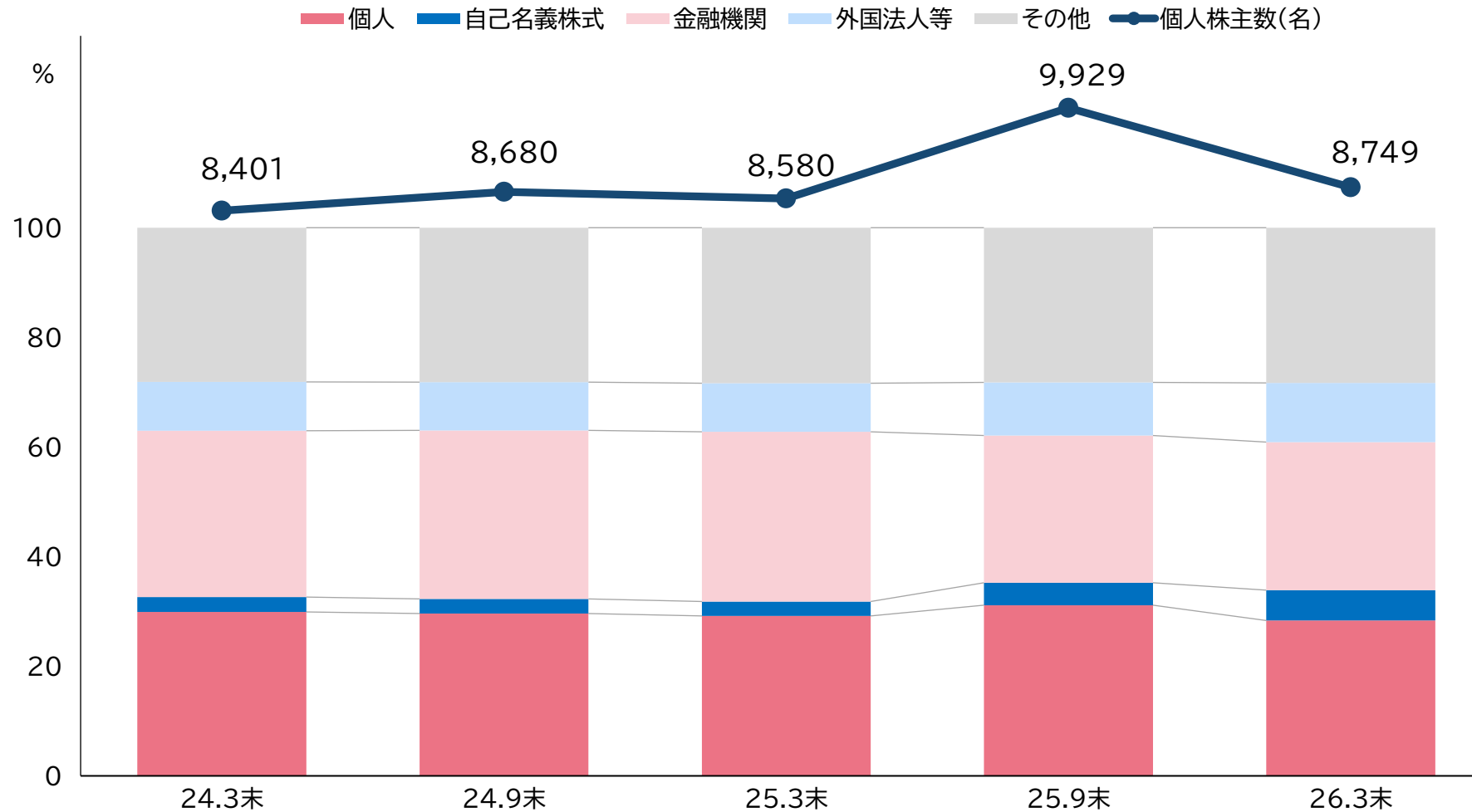
開催地：ATCホール(大阪府)
日程：2026年2月25日～26日
来場者数：10,165名



トピックス② 株式状況(所有者別株式比率)

25.3末と比べ、株式比率は金融機関が減少し、自己名義株式・外国法人等※が増加、個人は微減

所有者別株式比率 推移



※ 外国の法人と個人株主を含む

割当基準日:9月末

- ◇ 当社の有機入り配合肥料『米太郎』で栽培した富山県産コシヒカリを11月中旬に新米でお届け
 - ▶ 500株以上1,000株未満……………3kg
 - ▶ 1,000株以上……………5kg



割当基準日:3月末

- ◇ 当社オリジナルQUOカードを6月下旬にお届け
 - ▶ 500株以上1,000株未満……………1,000円分
 - ▶ 1,000株以上……………2,000円分
 - ▶ 1,000株以上を1年間以上継続保有※ ……3,000円分

※ 株主名簿基準日(3月末日及び9月末日)の株主名簿に同一株主番号で連続3回以上掲載され、かつ各基準日において1,000株以上保有する株主様



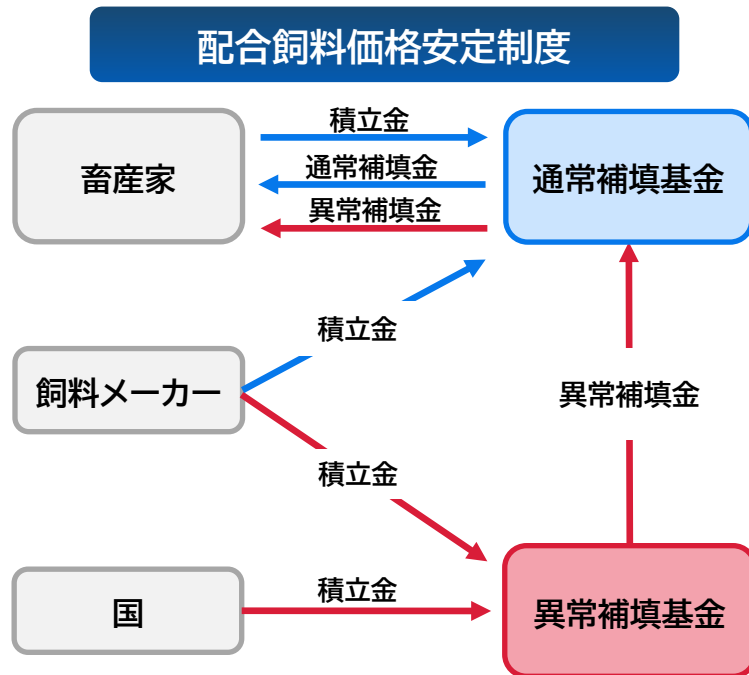
🔍 飼料価格安定基金制度とは

◇ 目的

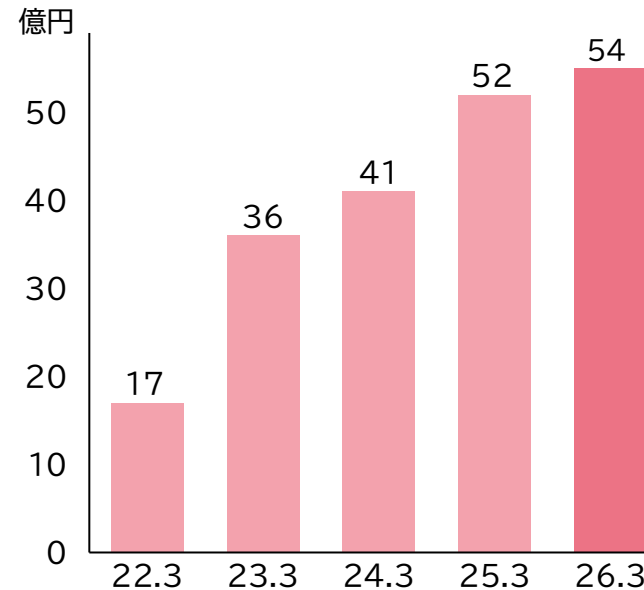
- ▶ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

◇ 内容

- ▶ 通常補填と異常な価格高騰時に通常補填を補完する異常補填の2段階の仕組みにより畜産家へ補填金を交付
- ▶ 通常補填は畜産家と飼料メーカーが積立て
- ▶ 異常補填は国と飼料メーカーが積立て
- ▶ 積立金の額は財源により増減



④ 基金負担金の推移



🔍 差別化飼料とは

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

🔍 環境に配慮した飼料とは

- ◇ 環境負荷の軽減、動物の飼育環境の改善、海洋資源の保護等につながる飼料
- ◇ 従来の飼料と比べて鶏糞や豚糞の発生量を低減する飼料、魚粉を使わない水産飼料等がある





本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。